

基本目標 1 多様な参画による生涯スポーツの推進

1. 現状と課題

- ・様々なスポーツ活動が展開されている中で、参加者の固定化や減少により、**市民の運動不足や健康増進の必要性**なども問われ、**幅広くスポーツに親しむことができるような動機付けや機会の創出**が必要。
- ・**総合型地域スポーツクラブを市内各地に展開すること**としていましたが、釜石シーウェイブスR F Cと唐丹スポこんクラブの**2団体にとどまっている**ことから、**今後の育成と発掘**が望まれる。
- ・市民スポーツの推進を担う**スポーツ推進委員は、25名を委嘱**しスポーツチャンバラ大会等の**自主事業**のほか、様々な団体に出向いてニュースポーツなどを普及する**講師派遣事業**、市などとの**共催事業等を実施**しているが、生涯スポーツを推進するうえで、**さらなる活動の充実**が必要。
- ・スポーツを通じた交流活動では、**富山県朝日町とビーチボール**を、**愛知県東海市と**は種目を固定していないが**相互に交流**が行われており、これからも**継続した息の長い取組み**が必要。

振り返り

- ・運動不足や健康増進のためのスポーツの場の創出については、震災後、被災者の心の復興や健康保持を目的として緊急雇用創出事業や復興交付金を活用し、体育協会職員による各種スポーツ教室を応援センター（公民館）単位で実施し、現在は被災者から市民の健康促進にフェーズを移行し現在も実施中。この10年で定着した今、福祉分野等での連携を図りながら今後も事業を継続するもの。
- ・総合型地域スポーツクラブにおいては、新たな団体の発掘には至っておらず、現行2団体の活動においても当初のようなものにはなっておらず、改めて見直しが必要と思われる。
- ・スポーツ推進委員においては、人口減や少子高齢化に伴い、委員定数を下げ現行では22名で年齢も高齢化しているものの、当初の計画通り、自主事業を展開する外、市出前講座でも活動を展開している。今後定数について見直しが必要と思われる。
- ・交流事業においても、現在も継続している他、ラグビーワールドカップ2019開催により新たな交流事業も展開しており概ね計画に沿った活動が実施された。

2. 方向性と具体的取組み

市民が、それぞれのライフステージに応じてスポーツをするきっかけとなるための取組みを推進。

特に、市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ推進委員活動の活発化やスポーツイベントの開催など環境づくりに努めると同時に、現在は震災の影響で公民館活動などが停滞していることから今後はその活発化を図る。

■子どものスポーツ

子どもたちの外遊びやスポーツは、心身の健全な発達に良い影響があると同時に成人後の豊かなスポーツライフの基礎となるため、**学校、家庭、地域が連携しながらスポーツに親しめる環境を整える。**

■成人のスポーツ

仕事や子育てが中心の成人層では、仕事帰りや休日、家事や育児の合間などで**個々の生活リズムに合**

わせたスポーツに親しむ機会を提供。また、競技スポーツのほか生活習慣病やメタボリックシンドロームに対応するスポーツの場についても設ける。

■高齢者のスポーツ

スポーツは、高齢者にとっても健康や生きがいがづくりの重要な要素となることから、それぞれの運動能力に合わせたスポーツの機会の提供と、参加する機会の拡大を図る。

■障がい者のスポーツ

誰もが一緒にできるスポーツの魅力を生かして、スポーツを通じて様々な人との相互理解を深めるような取組みを進める。

振り返り

■子どものスポーツ：学校と連携し、交流事業の派遣や各種競技大会の会場の提供ができた。家庭地域（PTA）との連携では、出前講座を介してニュースポーツの体験も提供できている他、各種少年団が主催する事業へのサポートも行っている。

■成人のスポーツ：参加が最も見込めない成人対象の事業については、計画通りには至っていない。特にも生活習慣病対策の事業においては募集しても、比較的時間に余裕のある高齢者の参加となっており、成人のスポーツの在り方、環境については再検討が必要。


■高齢者のスポーツ：体協と連携した各種スポーツ教室の展開を図っている他、令和元年度からはニュースポーツ交流大会を開催する等、計画通りに進められている。



■障がい者のスポーツ：成人のスポーツ同様に取組みはほぼ無いような状況。今後は障がい者スポーツ大会への参加サポートを行うなど、積極的な担当課との連携を図ることが必要。

(1) 市民スポーツの振興

総合型地域スポーツクラブは市民スポーツの振興に大きく寄与すると見込まれるので、関係団体との協議のうえで体制の強化と新たなスポーツクラブの設立を目指しながら、スポーツ推進委員活動と相まって市民スポーツの中核を成すように努める。また、スポーツを通じた交流の輪が一層広がるよう、姉妹都市である愛知県東海市 とのスポーツ交流や、友好都市の富山県朝日町 とのスポーツ交流も継続。

表 市民スポーツの振興事業

区 分	23～25 年度	26～28 年度	29～32 年度
1. 釜石シーウェイブスR F C支援事業			
2. 唐丹すぼこん事業の充実			
3. 栗橋地区スポーツクラブ設立事業【新規】			
1. スポーツ推進委員活動（次表）の展開			
2. 公民館事業（次表）の充実			




3. 生活応援センター事業（次表）の推進			
4. 健康づくり活動の推進			
5. 初心者向けスポーツイベント（次表）への協力			
1. 東海市スポーツ交流事業の推進			
2. 全国ビーチボール競技大会参加事業			

振り返り

- ・当市の総合型地域スポーツクラブである釜石シーウェイブス、唐丹すぼこんにおいては、継続的サポートを行いそれぞれ活動は行っているが、当初の見込みほどではなく、新規スポーツクラブの設立には至っていない。
- ・スポーツ推進委員については市担当部局と密に連携を図れており、結果的に生活応援センター事業、公民館事業にも有効的に活用され健康づくりの一助を担っている。
交流事業についても、友好的に継続中である。

（２）スポーツイベントの開催

市民を対象としたスポーツイベントは、健康マラソン大会や歩け歩け運動のほか、各競技団体や体育指導委員の活動、公民館、働く婦人の家 などにおいてニュースポーツも含めて幅広い階層、年代に対して取組まれているので、人口が減少し被災者も今後しばらくの間仮設住宅での生活を余儀なくされると予想される中であってもその機会をこれまでどおり確保すると同時に、内容についても充実に努める。また、市の主催するスポーツ教室や健康づくり活動についても、各種団体からの助成事業の利用も検討しながら推進。

区 分	23～25 年度	26～28 年度	29～32 年度
1. 釜石健康マラソン大会の開催			
2. 歩け歩け運動の実施			
3. かまいし仙人峠マラソン大会への支援			
4. その他市民スポーツ大会（次表）への協力			
1. スポーツ講習会やスポーツ教室の開催			
2. 公民館事業の充実（再掲）			
3. 働く婦人の家事業（次表）の実施			
1. スポーツ推進委員活動の推進（再掲）			
2. 公民館事業の充実（再掲）			
3. 生活応援センター事業の展開（再掲）			
4. 健康づくり活動の推進（再掲）			
5. 初心者向けスポーツイベントへの協力（再掲）			

振り返り

スポーツイベントにおいては、関係機関の協力もあり友好的に継続されている。但し、内容を工夫していかなければ、事業そのものがマンネリ化し結果的に参加者の減少につながることから、新たな挑戦も必要と思われる。

別表 各団体等におけるスポーツイベント（平成22年度）

■スポーツ推進委員活動の主なもの

〈実践活動〉

体力測定やニュースポーツの普及（釜石健康マラソン大会/健康づくりの集い/スポーツチャンバラ大会/レッツスリム体力測定/太極拳教室）、仮設住宅における軽運動推進活動

〈講師派遣〉

P T A親子レクリエーション（白山小/双葉小/甲東幼稚園/甲子中/釜石東中/中川原地区子供会/私立幼稚園 P T A連合会）

〈研修会〉

スキルアップ研修会/東北地区体育指導委員研修会/岩手県体育指導委員研修会/全国体育指導委員研究協議会/上閉伊地区スポーツ交流会

■スポーツに関する公民館事業と生活応援センター事業の主なもの

- ・地域健康講座/高齢者向けヨガ教室/まちの元気発信事業（以上、釜石公民館・同センター）
- ・各地区ウォーキング教室/地域会議対抗ニュースポーツ運動会（以上、小佐野公民館・同センター）
- ・みんなでウォーキング/ホームヨガ教室（以上、甲子公民館・同センター）
- ・うのとり運動教室/いきいきシルバー教室（以上、鶴住居公民館・同センター）
- ・山びこ生き生き教室/山びこふれあい教室（以上、栗橋公民館・同センター）
- ・生き生き学級（以上、唐丹公民館・同センター）

■初心者向けスポーツイベントの代表的なもの

キッズミニサッカー大会/登山教室/トライアスロン練習会/バウンドテニス初心者講習会/根浜ヨット体験教室/釜石ラグビースクール/各種ウォーキング大会

■市民スポーツ大会の主なもの

市民武道大会/市民弓道大会/グラウンドゴルフ交流大会/釜石・大槌地区交流ゲートボール大会/はまゆりライオンズカップサッカー大会/市民登山会/市民水泳大会/市民スキーツアー/はまゆりソフトテニス大会/シニアソフトボール大会/市民卓球大会/ちびっこトライアスロン大会/体育の日テニス練習会/釜石市長杯バウンドテニス大会/釜石・気仙地区ミニバス交歓大会/バレーボール市民大会/釜石ビーチボールフェスティバル/三鬼杯兼中村杯野球大会/根浜カップヨットレース/タグラグビーウィンターフェスティバル/市民駅伝大会/マスターズ陸上記録会/釜石市民チャリティゴルフ大会/シーサイドウォーク in 釜石/エアロビックフェスティバル

■スポーツに関する働く婦人の家事業の主なもの

〈定期活動〉

働く婦人の家まつり/スポーツ交流会

〈自主グループ〉

バドミントン/バウンディ火曜会（バウンドテニス）/太極拳グループ/P・Y・C（パワーヨーガ）/スクラップ（エアロビクス）/ウォーキングの会/のびのびストレッチ/リアスクラブ（バレーボール）/卓球愛好会/バウンドエコー（バウンドテニス）/59ピンポン/ピンポンクラブ

基本目標 2 競技スポーツの振興

1. 現状と課題

- ・岩手国体の開催を平成 28 年に控え、その実施体制や国体後のスポーツ振興も展望した施設整備のほか、選手の強化対策が急務となっています。
- ・釜石市体育協会において選手の強化に着手していることから、釜石市スポーツ振興基金の活用とともに市の施策と連動したこれら環境整備が求められています。
- ・釜石シーウェイブスは地域密着型クラブチームとして 11 年目を迎え、その支援組織として立ち上がった「スクラム釜石」の活動に継続した支援が必要です。
- ・トライアスロンは 21 回目となる大会を開催するなど定着しているが、東日本大震災によってトライアスロン会場となっていた根浜海岸全体が大きな被害を被ったことから継続した支援が必要です。
- ・競技スポーツは、他方でテレビ等のメディアによって多くの観戦者を有していますが、本市の場合、大きな大会を招致することができる環境にないことから施設の整った地域に依存せざるを得ない状況となっています。そのため、被災した沿岸地域の復興のシンボルとして総合的なスポーツ施設の整備を検討し、例えばスクラム釜石などと連携しながら 2019 年に開催が決定しているラグビーワールドカップのような大会の招致を目指すなど、経済波及効果の観点からもスポーツ大会の誘致活動を展開する必要があります。

振り返り

- ・震災後も、当市の代表的競技スポーツであるラグビーやトライアスロンにおいては、継続的開催を行うべく、釜石シーウェイブスや釜石トライアスロン国際大会実行委員会に対してサポートを実施してきた。H28 の国体も成功裏に終えることができ、改めて東日本大震災からの復興について発信することができた。
 - また、国体のレガシーとしてオープンウォータースイム大会も継続開催されている。
 - ・環境整備においては、ラグビーワールドカップ 2019 開催が当市も会場になったことに伴い、復興スタジアムや市民体育館が整備された。
 - ・ラグビーワールドカップ 2019 においては、大会閉会後のレガシー活動を展開している他、新たに設営された施設の課題である利活用についても、各種大会や合宿誘致を継続的展開中となっている。
 - ・市民体育館においても、震災により屋内競技の場が乏しかった当市において、復旧を待ち望んでいた多くの市民が利用していただいている。
- 以上のことから、競技スポーツにおいては大きな振興が図れたと思われる。

2. 施策の方向性と具体的な取組み

岩手国体を一つの目標として、市、体育協会、各種スポーツ団体が連携しラグビーやトライアスロン、空手、なぎなたなどの本市の特徴的な競技をはじめ、各種競技においてもアスリート及びアスリートの指導者を育成。

また、国体の開催後も展望し、被災した釜石市民体育館をはじめとする施設等のスポーツをめぐる環境の充実に向けていくことで競技スポーツの振興を図る。同時に、全国規模あるいは国際大会等のスポーツイベントの誘致を検討しながら、観戦するスポーツを通じてその面白さを周知。

(1) 選手の強化と指導者の育成

釜石市体育協会及び加盟スポーツ団体等との連携のもと、選手及び指導者の育成と強化に取り組んでいくが、将来的な競技スポーツの振興も視野に、震災によって団体が減少しているスポーツ少年団などの活動も支援していく。また、勤労者の活動の場を提供すると同時に、企業に対してもスポーツすることができよう環境づくりについて働きかけていく。

スポーツ大会や合宿の誘致については、競技施設の環境整備の推移を見ながら関係団体等からの協力を得るなどして組織的に行い、特に平成 31 年に日本での開催が決定しているラグビーワールドカップの招致については、復興のシンボルとして進めていく。

区 分	23～25 年度	26～28 年度	29～32 年度
1. 岩手国体選手育成補助金【新規】 2. アスレチックトレーナー招へい事業【新規】 3. 釜石市体育協会補助金 4. 釜石応援ふるさと大使交流事業 5. 釜石シーウェイブスR F C支援事業（再掲） 6. 釜石はまゆりトライアスロン大会補助金 7. 勤労青少年ホーム事業			
1. 釜石ラグビィックドリーム事業補助金 2. 「ラグビーの街、釜石」普及啓発事業 3. 釜石はまゆりトライアスロン大会補助金（再掲）			
1. 各種スポーツ大会誘致推進事業【新規】 2. スポーツ大会誘致推進懇話会の設置【新規】 3. ラグビーワールドカップ大会の誘致【新規】 4. 各種スポーツ大会開催補助金（次表）			

別表 各種スポーツ大会開催補助金の実績

<p>■各種スポーツ大会開催補助金(平成 22 年度)</p> <p><ラグビー></p> <p>釜石ラグビィックドリーム事業補助金：2,100 千円</p> <p><トライアスロン></p> <p>釜石はまゆりトライアスロン国際大会事業補助金：1,800 千円</p> <p><その他県大会（各 50 千円）></p> <p>三陸海岸学童軟式野球大会/SANRIKU CUPビーチボール競技大会/岩手県弓道釜石大会/岩手県高等学校新人大会ボクシング競技/秋季バウンドテニス岩手県大会/鉄と魚のまち釜石潮騒ウォーク/岩手県ラグビィースクール秋季交流大会/釜石市長杯争奪スポーツチャンバラ大会/岩手県OB軟式野球大会</p>

振り返り

体育協会を介して各スポーツ少年団等加盟団体に活動費の一部助成などを実施。計画策定当初よりスポーツ少年団の減少は進み、現在では各団体児童の取り合いになるほど、少子化が進んでいる。勤労者及び企業に対するスポーツする環境の提供はほぼ出来ていないことが課題。国体及びRWC2019は成功裏に終えることができた。

(2) 岩手国体への対応

岩手国体を契機に本市の競技スポーツの振興が図られるよう、選手及び指導者の育成と強化に取り組みます。同時に、実施体制を整えつつ岩手国体を受け入れるにあたっての市民意識の向上などの受け入れ体制についても充実する必要がある。

国体競技施設としては、ラグビー会場として陸上競技場の1面（次図）を基本としつつサッカー場が仮設住宅の用地となったことから2面の人工芝化も検討するほか、トライアスロンについても、根浜地区の海岸や道路はもとより、トイレをはじめとする競技に付随する観光施設の整備等を進めるもの。

区 分	23～26 年度	27～29 年度	30～33 年度
1. 国体専任職員の配置	→		
2. 国体推進室（仮）の開設【新規】	→	→	
3. 国体課（仮）の組織【新規】	→		
1. 国体推進委員会（仮）の組織【新規】	→	→	
2. きれいなまちづくり運動等の展開【新規】	→		
1. 釜石市陸上競技場調査測量設計事業【新規】	→	→	
2. 釜石市陸上競技場人工芝化事業【新規】	→	→	
3. トライアスロンコース等整備事業【新規】	→		

振り返り

- ・国体においては、推進室を開設し応援職員等の協力も有り予定通り国体が開催された。
- ・7人制ラグビー開催の課題であった、会場整備は、旧釜石市陸上競技場をFIFA等の支援を受け人工芝2面の新たな球技場として整備し、今では、釜石シーウェイブスのホーム練習グラウンドやサッカーの各年代別の大会も数多く開催されている。
- ・トライアスロンにおいては、震災前のようなコース選定は出来ず、箱崎半島線を活用する等、その年によってコースに変更が生じている。定番のコース選定を協会と進めることが課題となる。
- ・岩手国体で初めて正式競技として採用されたオープンウォータースイムは当市根浜海岸を会場として開催され、国体後も引き続きオープンウォータースイム大会として継続開催され全国各地から多くの選手が参加している。

基本目標3 スポーツをめぐる体制の強化

1. 現状と課題

- ・人口の減少に伴いクラブ活動やスポーツ少年団活動の継続が困難になって廃部や縮小などで小中学生のスポーツの選択肢が狭まりつつある。
- ・優れた指導者の確保が必要だが、学校においては、実技指導力を持った教員の確保が年々困難となっている。
- ・学習指導要領では中学校の体育分野では、授業時数を90時間から105時間へ増加させるとともに武道（柔道・剣道・相撲）の1、2学年における必修化が実施されたことから、クラブ活動の活性化や体力の向上、国家及び郷土愛を育む観点からも対応が必要。
- ・幅広い年代におけるスポーツの裾野を広めるためには、スポーツリーダーバンクなどに登録するボランティアの発掘やスポーツ推進委員活動の充実のほかにも、体育協会やスポーツ少年団本部をはじめとする関係団体との一層の連携が必要である。

振り返り


- ・人口減少特にも、少子高齢化は当市が掲げる児童のスポーツを通じての健全育成という目標に大きな課題が生じている。また、社会・経済の変化等により、教育等に関わる課題が多様化し、学校だけでは解決することができない課題が増えており、少子化が進む中、運動部活動においては、維持は難しくなっている。そのためスポーツ庁より運動部活動に関する総合的ガイドラインが示され、計画当初から子ども達の環境が著しく変化したことに伴い課題も複雑化している。

2. 施策の方向性と具体的な取組み

スポーツに関する地域における人材の発掘に努めると同時に、必要に応じて外部からの指導者等を招へいし、関係機関と連携しながら生涯スポーツを推進する。学校体育においても、指導力を持った人材を活用することで体位、体力の向上を図る。また、スポーツ推進委員をはじめとする各種団体のほかに、健康や医学の面においても大学や病院等との連携を深める。

(1) 学校体育等の充実

震災からの復興の過程の中、次代を担う子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しみ、また、スポーツにおいても幼、小、中、高とスムーズな接続ができ、心身の基礎づくりや体力・運動機能を向上させるよう外部指導者の活用を積極的に図りながら、運動部活動や各種大会等に対しても支援する。学校施設については、被災し、あるいは老朽化の顕著な施設から順次整備して学校体育施設の開放事業も推進し、学校支援地域本部事業におけるスポーツボランティアの活用と併せて、学校におけるスポーツ活動を推進する。

区 分	23～26 年度	27～29 年度	30～33 年度
1. 釜石・大槌地区小中学校体育連盟負担金			
2. 各種スポーツ大会開催補助金（再掲）			
3. 複数校による合同チームでの活動の検討			

4. 学校文化体育振興会運営費補助			
1. 地域人材を活用した体育等推進事業【新規】 2. 外部コーチ招へい事業【新規】 3. スポーツ推進委員活動の展開（再掲） 4. 中学校への柔道畳購入事業【新規】	→		
1. 学校体育施設開放事業 2. 学校校庭照明等モデル事業（大平中）【新規】 3. 白山小学校屋内運動場大規模改造事業【新規】 4. 大平中学校屋内運動場大規模改造事業【新規】 5. 学校支援地域本部事業】	→		→

振り返り

- ・市の機構改革により、平成 29 年度からスポーツ所管部署が教育委員会から市長部局に変わり、学校体育についてのみ教育委員会所管となったが、生涯スポーツ、社会体育の観点からも、学校体育についてはこれまでどおり教育委員会学校教育課と連携して取り組んだ。

（２）関係団体との連携

生涯にわたっての豊かなスポーツライフの実現と競技力の向上のためには、行政と民間、スポーツに関連する各種団体同士はもちろんのこと、生涯スポーツと競技スポーツ、健康分野とスポーツ分野、学校体育と成人スポーツなど各種連携と協力が不可欠である。したがって今後は、体育協会をはじめとして関係機関、団体との連絡調整を一層強化していかなければならない。

また、生涯スポーツを推進するうえでは、スポーツ推進委員の活動だけでは不足することから、新たにボランティアとして生涯スポーツ指導員を設置し、スポーツ推進委員の活動と相まって市民スポーツの底辺を拡大していく。

区 分	23～26 年度	27～29 年度	30～33 年度
1. 生涯スポーツ指導員の設置事業【新規】 2. スポーツ推進委員活動の展開（再掲） 3. 釜石市体育協会補助金（再掲） 4. 釜石シーウェイブスR F C 支援事業（再掲）			→
1. 岩手大学公開講座の開催 2. 立正大学デリバリーカレッジの開催 3. スポーツクワーター・トレーナー等派遣事業【新規】			→

振り返り

- スポーツ推進委員については、基本目標 1 でも振り返っているように、人口減や少子高齢化に伴い、委員定数を下げ現行では 22 名で年齢も高齢化しているものの、当初の計画通り、自主事業を展開する外、市出前講座でも活動を展開している。今後定数について見直しが必要と思われる。
- 生涯スポーツ指導員配置においては、限られた人口において無理がある。仮に居るとした場合スポーツ推進委員に委嘱することが現実的となる。
- 各大学との連携においては、生涯学習係主催の立正大デリカレや岩大との継続的連携が図れている他、復興支援で長年当市をサポートしてくれている、拓殖大学が学生の被災地学習と併せて地域での復興支援としてボランティア活動してる他、拓殖大各スポーツ部も市内で練習会等実施しており競技スポーツの推進を図ってもらっている。

基本目標 4 スポーツに親しむ環境の充実

1. 現状と課題

釜石市には、市民体育館や市営プール、陸上競技場、平田公園などのスポーツ施設がありますが、**市民体育館が東日本大震災によって一部大きく被災した**ほか、**各グラウンドが仮設住宅の用に供され**ており、**そのほかの施設も老朽化や施設の充実などの課題**を抱えている。また、より気軽にスポーツに親しむためには、**身近な生活圏にスポーツ関連施設があることが望まれる**ことから、統合した学校施設などの場づくりが期待される一方で、**スポーツ関連施設の整備・運営にあたっては費用対効果の面からの検討も必要**である。このため、**既存施設のリニューアル**などのほか、**運営についても**現在進めている**指定管理者制度の拡大**やNPO法人の利用などさらなる効率化が求められている。

さらに、スポーツに親しむだけでなくスポーツを観戦したりボランティアとして支える意味でも、関連する情報を充実することが不可欠であるが、必ずしもその情報が十分ではなく、**インターネットによる施設の利用予約**なども行われていない。そのため、これらの情報を一元管理するとともに適時な情報の受発信方法についても検討が必要である。

振り返り

- ・復興 10 年を契機に、鶴住居復興スタジアムが新設・市民体育館が復旧されたほか、仮設住宅用地であった平田公園多目的グラウンドや、桜木町多目的広場は地域に根差した多目的なものとして広く開放している。昭和園グラウンドにおいては、釜石警察署の設置に伴い、旧釜石第二中学校跡地に八雲町大天場運動公園を新設し、身近にスポーツ（運動）を楽しめる場を提供出来るようになり、概ね計画通り実施できた。
- ・指定管理においては、諸課題があるがなんとか運用している現状。指定管理者にも次のステップに上がってもらうようなサポートが課題。
- ・インターネット環境は 10 年前から飛躍的に変化している。現状の環境に則した内容でインターネットで施設の情報提供や利用予約にも率先して取り組んでいる。

2. 施策の方向性と具体的な取組み

市内で開催されるスポーツイベントに関する情報のほか、施設の利用状況、サークル活動、チームの紹介などスポーツに関連する幅広い情報の提供に取り組みます。また、施設管理コストの低廉化に努めながらも、既存施設のリニューアルや遊休となっている公共施設の有効活用を図っていきます。

(1) スポーツ情報の提供

これまでスポーツに関する情報は、行政のほか各種団体から提供するものに限られていましたが、今後は釜石市体育協会と連携しながら、スポーツに関する情報を一元管理するとともに、地域情報通信基盤整備推進事業によって大部分の世帯に光ファイバー網が整備されることから、これを利用しながらスポーツ情報を積極的に提供する。

具体的には、情報提供を行う基盤としてコンテンツマネジメントシステム (CMS: 次図) を導入する。CMS は、Web コンテンツを管理するシステムであるが、これを導入することで HTML やサイトのレ

アウトを気にすることなく各種情報が得られるよう、光ファイバーを利用した難視聴地域の解消と情報の地域格差の解消を目指す。

また、体育施設の予約システム（次図）の導入についても検討し、利用者がパソコンや携帯電話、テレビなど様々な端末から利用の登録や情報の入手ができるようにする。

区 分	23～26 年度	27～29 年度	30～33 年度
1. スポーツ情報提供事業			
2. 釜石市体育協会補助金（再掲）	➡		
3. 指定管理者による施設管理業務			
1. 地域情報通信基盤活用事業【新規】			
2. 体育施設予約等システムの検討【新規】	➡		

振り返り

- ・体育施設予約等システムについては震災後より運用を開始し、施設定期利用者を中心に普及しており、順調に運用されている。
- ・当初目指していた地域情報通信基盤整備事業による光ファイバー網を活用した情報発信は、情報通信技術の飛躍的な発展により普及した携帯電話、スマートフォンの普及により、利用者個人が「いつでも、どこでも」情報の入手や施設の予約ができるようになったことにより、それに合わせて情報提供ができるような体制を整えた。また、市のホームページも CMS を導入したことにより、担当部署がリアルタイムで更新できるようになり、利用者に対するきめ細やかな情報が提供できた。

※CMS：Contents Management System（コンテンツ・マネジメント・システム）の頭文字をとった略称。

web 制作に必要な専門的な知識が無くても、web サイトやコンテンツを構築・管理・更新できるシステム。

（２）体育施設の整備

東日本大震災によって公共的なスポーツ施設の多くが被災しましたが、平田公園野球場など早期の再開を目指して災害復旧工事を行うと同時に耐震改修を進め、併せて計画的に施設のメンテナンスに努める。また、市民体育館や陸上競技場をはじめ、昭和 30 年代に建設され老朽化が進んでいることから、各所のグラウンドに建設された仮設住宅がしばらく継続することも踏まえ、長期的なスポーツ振興と復興促進の観点からも拠点化を図る。

区 分	23～26 年度	27～29 年度	30～33 年度
1. 釜石市営プール災害復旧事業【新規】			
2. 平田公園野球場災害復旧事業【新規】			
3. 市民交流センター災害復旧事業【新規】			
4. 中妻体育館災害復旧事業【新規】			
5. 市民交流センター耐震化事業【新規】			
6. 中妻体育館耐震化事業【新規】			
7. 被災小中学校災害復旧事業【新規】			
1. 釜石市陸上競技場調査測量設計事業【新規】			
2. 釜石市陸上競技場人工芝化事業（再掲）			

3. トライアスロンコース等整備事業（再掲） 4. 釜石市営プール改修事業 5. 釜石市営プール利用促進（トレーニング設備）事業【新規】 6. 平田公園野球場利用促進（水洗化）事業【新規】 7. 市民交流センター利用促進（暖房・給排水等整備）事業【新規】 8. 地域屋外スポーツセンター整備事業【新規】 9. 新市民体育館整備事業【新規】 10. 釜石市民体育館解体事業【新規】 11. 白山小屋内運動場大規模改造事業（再掲） 12. 大平中屋内運動場大規模改造事業（再掲） 13. 学校校庭照明等モデル事業（大平中・再掲）			
1. 体育施設等管理運営事業 2. 指定管理者による施設管理業務（再掲） 3. 学校体育施設開放事業（再掲）			

振り返り

- ・当初計画した施設の大規模改修や修繕については、ほぼ計画どおり実施できた。
- ・当初計画した施設整備のほか、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の会場として当市が選ばれたことにより、新たに鶴住居復興スタジアムを整備したほか、同キャンプ地として根浜に整備したグラウンドを多目的広場として活用することとした
- ・希望郷いわて国体を契機に、市陸上競技場を人工芝ピッチ 2 面の市球技場として新たに整備した。陸上競技場の再整備については今後の動向を見ながら検討することとする。